



ICTが拓く 子どもの学び

ICTの活用が世界規模で急速に進んでいることを受け、変わりつつある学びの現場。今回の特集では、ICTを活用した本市の教育の取り組みを紹介します。

▶ 国学校教育課 ☎0287(37)5349

暮らしにも教育現場にも
欠かせないICT

国内の8割以上の人が携帯電話やスマートフォンなどを持っている現代。「インターネットで調べ物をする」「SNSでコミュニケーションを取る」などのICT*の活用は、今や私たちの生活に欠かせません。また、最近では新型コロナウイルスの影響で、あらゆるサービスがインターネットで予約・購入できるようになったり、テレワークが増えたりと暮らし方や働き方が大きく変化しました。そのような中、予測の難しい社会を生き抜く力は子どもたちにも必要であり、教育現場も改革を迫られています。

そこで文部科学省は、最先端のICT技術を教育に取り入れる「GIGAスクール構想」を提唱。本市でも児童生徒一人一人にタブレットを整備し、これまでの教育とICT教育を組み合わせた新たな学びが始まりました。

※ICTとは
Information and Communication Technologyの略。情報通信技術そのものや、その技術を活用して情報をやりとりする。

ICTを活用し、ワクワクドキドキする学校づくりを

「古き良き教育」からの転換

20年ほど前、私も理科の教員として教壇に立っていました。当時も現在も、「一人一人の反応を見ながら対面で教える」という指導方法はほぼ同じです。日本に息づく良い教育の形である一方、代わり映えのしない「教師主導型」の授業が長年行われているという見方もできます。ICTの活用は、こうした教育のあり方を大きく変える起爆剤になると考えます。

ICTは効果的な「手段」

整備したタブレットを使うと、子どもたちは分からないことを自分の力で調べられます。友達とコミュニケーションを取りながら、協力して

業務効率化でより良い学びを

ICTの活用は、教職員の働き方にも良い影響をもたらすのではないかと期待しています。業務を効率化し、子どもたちと向き合う時間が増えれば、授業の改善につながります。ICTをうまく活

Interview



つきい ゆうじ 教育長

用しながら、「子どもたちの知的好奇心や学ぶ意欲を引き出し、伸ばせるような授業づくり」を進めることが大切だと考えます。

子どもたちの将来を見据えて

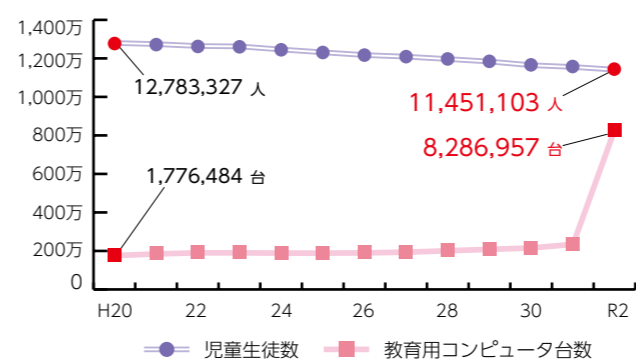
学校のテストには答えがありますが、社会に出ると正解のない課題に直面します。そのような場面で解決に向けて自ら真剣に取り組む力、ときには仲間と相談し、手を貸してもらう力は、これからの社会でますます重要になるでしょう。私は子どもたちに、そうした「生きる力」を身に付けて巣立ってほしいと願っています。

今後も「学びが面白い学校」を目指し、「ワクワクドキドキする学校づくり」を進めていきたいと考えています。

「これまでの教育×ICT教育」で期待される効果

- 分かりやすい授業** 映像や音声を使って分かりやすく教え、児童生徒の興味や学習意欲を高める
- 学習の効率化** 板書の書き写しなどの時間を短縮し、思考力や表現力を深める活動に充てる
- 校務の効率化** 教職員の業務の負担を減らし、より良い教育や指導のために時間を使えるようにする
- 個別学習・協働学習** 一人一人の理解度に合った指導や、複数人でともに課題解決に取り組む活動を行う
- 情報活用能力の向上** 必要な情報を主体的に得る力、情報を正しく読み取る力を養う

国内の教育用コンピュータ台数と児童生徒数



平成20年度
7.2人で1台を共有。
少し使いづらい……

令和2年度
1.4人で1台使えて、
快適に勉強できる！

12年間で……

出典:文部科学省「令和2年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査」